

令和5年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	アートやものづくりの活動を軸にした放課後の地域ネットワーク
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授 五十嵐 史帆 (学内連携) 教授 佐藤 ゆかり 教授 東原 貴志 教授 藤井 和子
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 一般社団法人雁木のまち再生 (担当者職名・氏名) 理事長 関 由有子
4 事業の趣旨・目的	放課後の児童を対象とし、アートやものづくりに関する様々な活動を体験する拠点を提供するとともに、上越地域の文化の発展を見据えた、地域における教育モデルの実践事例を開発する。さらに、大学生、地域の小学生、ボランティア等の住民が、様々な活動を通して交流することで、地域の活性化につなげ、上越市の地方創生への貢献を目指す。
5 事業活動報告	上越市高田地区仲町の町家を借りあげ、「ヨリ・ミチまちや」と称するアートやものづくりの活動を行う場を提供した。 高田地域の4小学校の児童21名と、運営を行う学生として、美術科教育、家庭科教育、技術科教育等を学ぶ大学院生並びに学部1年次生と留学生の参加を得た。 各月の活動は、以下の通りである。 6月7日(水)、16日(金)「名前バッチ・バック」 7月5日(水)、17日(金)「まちや歩きうちわ」 9月6日(水)、15日(金)「マイスツール」
6 本事業で得られた成果	3ヶ月間の継続した活動により、児童がアートやものづくりの活動を軸に地域に集い、大学院生及び学部1年生が、それぞれの特性や専門性を活かしつつ、協働して準備や支援をおこなう場を提供することができた。また、町家での活動は、地域からも見えやすく、地域の方々から声をかけていただくことも多く、児童や大学生の活動の様子を知っていただく機会となった。 事後アンケートより、参加児童が概ね満足している様子が見られたとともに、保護者から「一人で地域の活動に参加させられることがわかった」「知らない人ばかりの場所へ自分から参加したいと言い、毎回楽しかったと帰ってきた」「家でも学校でもできない珍しい体験ができた」「自分で作る」ことで自信につながり、自尊心も高まったように思います」などの声が聞かれたことから、目的は達成できたと考えられる。 将来的には、放課後の児童・生徒が、アートやものづくりの活動等を通し地域と関わり、教員養成大学の学生が、子どもたちと日常的に関わる実践的な場所の構築を目指したい。そのことで、地域の文化や生活等の中の造形への関心や理解を深めるとともに、地域の活性化につなげていきたい。
7 その他(成果物等の名称)	特になし

「ヨリ・ミチまちや」の概要



外観と内部の様子



放課後に町家に来る様子，学生が活動を説明する様子，「ヨリミチ日記」で活動を振り返る様子

6月7日（水），16日（金）「名前バッチ・バック」

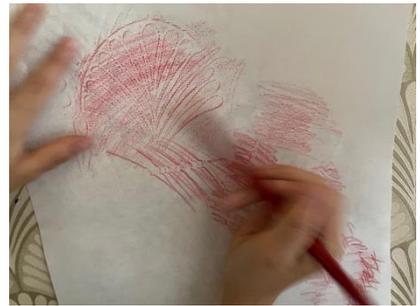


型染めの方法でバックを装飾する様子



缶バッチをつくる様子

7月5日(水), 17(金)「まちや歩きうちわ」



町家の中で凸凹を探してフロッタージュ（こすり出し）をする様子



フロッタージュと折り染めの2種類の和紙を使ってうちわに仕上げる様子

9月6日(水), 15日(金)「マイスツール」



木材にシールやマスキングテープを貼り着色と塗装する様子



木材を切断したり、スツールに組み立てる様子と完成品